

計画事業番号	00678	事務事業名	し尿処理事業	担当部署	市民環境部環境課	電話	4102
--------	-------	-------	--------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			
事務事業開始年度	平成25年度		個別計画等	北広島市一般廃棄物処理基本計画			
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 5 章) 快適な生活環境のまち						
	(第 6 節) 下水道の整備						
	(施策 3) し尿・浄化槽汚泥の処理						
2 対象	北広島市のし尿・浄化槽汚泥処理及び長沼町・由仁町・南幌町のし尿・浄化槽汚泥						
3 目的と内容	し尿・浄化槽汚泥のバイオガス化処理の実施 平成29年度以降も引き続き、北広島市のし尿・浄化槽汚泥処理及び長沼町・由仁町・南幌町のし尿・浄化槽汚泥を事務委託により処理を行う。						
4 実施内容 (手段)	28年度まで	し尿等処理負担金					
	29年度	し尿等処理負担金					

【事業の計画・実績】

平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画	計画
し尿・浄化槽汚泥のバイオガス化処理	し尿・浄化槽汚泥のバイオガス化処理	し尿・浄化槽汚泥のバイオガス化処理	し尿・浄化槽汚泥のバイオガス化処理	し尿・浄化槽汚泥のバイオガス化処理	し尿・浄化槽汚泥のバイオガス化処理	し尿・浄化槽汚泥のバイオガス化処理	し尿・浄化槽汚泥のバイオガス化処理

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成30年度に向けた具体的な方向性		評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。		「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。引き続き、長沼町、由仁町、南幌町との事務委託により、し尿、浄化槽汚泥のバイオガス化処理を下水処理センターで行う。		
2次評価	現状継続	現状継続とする。		

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			87,264		86,101		115,978		115,980	
事業額	直接事業費	国支出金	0		0		0		0	
		道支出金	0		0		0		0	
		地方債	0		0		0		0	
		その他特財	73,524		77,697		115,978		115,980	
		一般財源	13,740		8,404		0		0	
	① 合計	87,264		86,101		115,978		115,980		
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	② 人数(年間)	0.10	0.50	0.10	0.50	0.10	0.50	0.10	0.50	
	③ 1人当り年間平均人件費	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	
	④ =②×③	840	2,250	840	2,250	840	2,250	840	2,250	
総事業費①+④			90,354		89,191		119,068		119,070	

【評価指標】

指標名			単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
活動指標	①年間受入量	目標値	kl	12,372	11,854	11,854	11,854
		実績値		11,389			
	②年間処理量	目標値	kl	12,372	11,854	11,854	11,854
		実績値		11,389			
③	目標値						
	実績値						
④	目標値						
	実績値						
成果指標	①し尿等の適正処理 処理量/受入量	目標値	%	100	100	100	100
		実績値		100			
	②	目標値					
	実績値						
③	目標値						
	実績値						

【評価項目】

チェック項目		評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか? ・上位の施策への貢献度は大きいですか? ・特定の団体の利益に偏っていませんか? 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	道央地区環境衛生組合の解散に伴い、これまで広域処理していた「し尿及び浄化槽汚泥」の処理を事務委託により、下水処理センターにおいて処理するものであり、妥当である。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか? 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	下水道の普及や人口減少に伴い、処理量は減少する可能性はあるが、計画どおり全量処理を行っており、成果はあがっている。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	3	今後、下水道の普及や人口減少に伴い処理量は減少する可能性はあるが、すでに全量処理を行っているため、現状よりも向上する可能性はない。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(人件費・所要時間等)を削減するための方法はありませんか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	下水処理センターにおいて、下水道、生ごみ、し尿等の処理を混合で処理しており、また、事務委託による広域処理も行うことから、単独処理するより効率的であり、コストの削減は困難である。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けあり <input type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
------------------------	--

【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 <input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。
-----------------------------	--